

# ちがった視点で個別の指導計画を作ろう！！

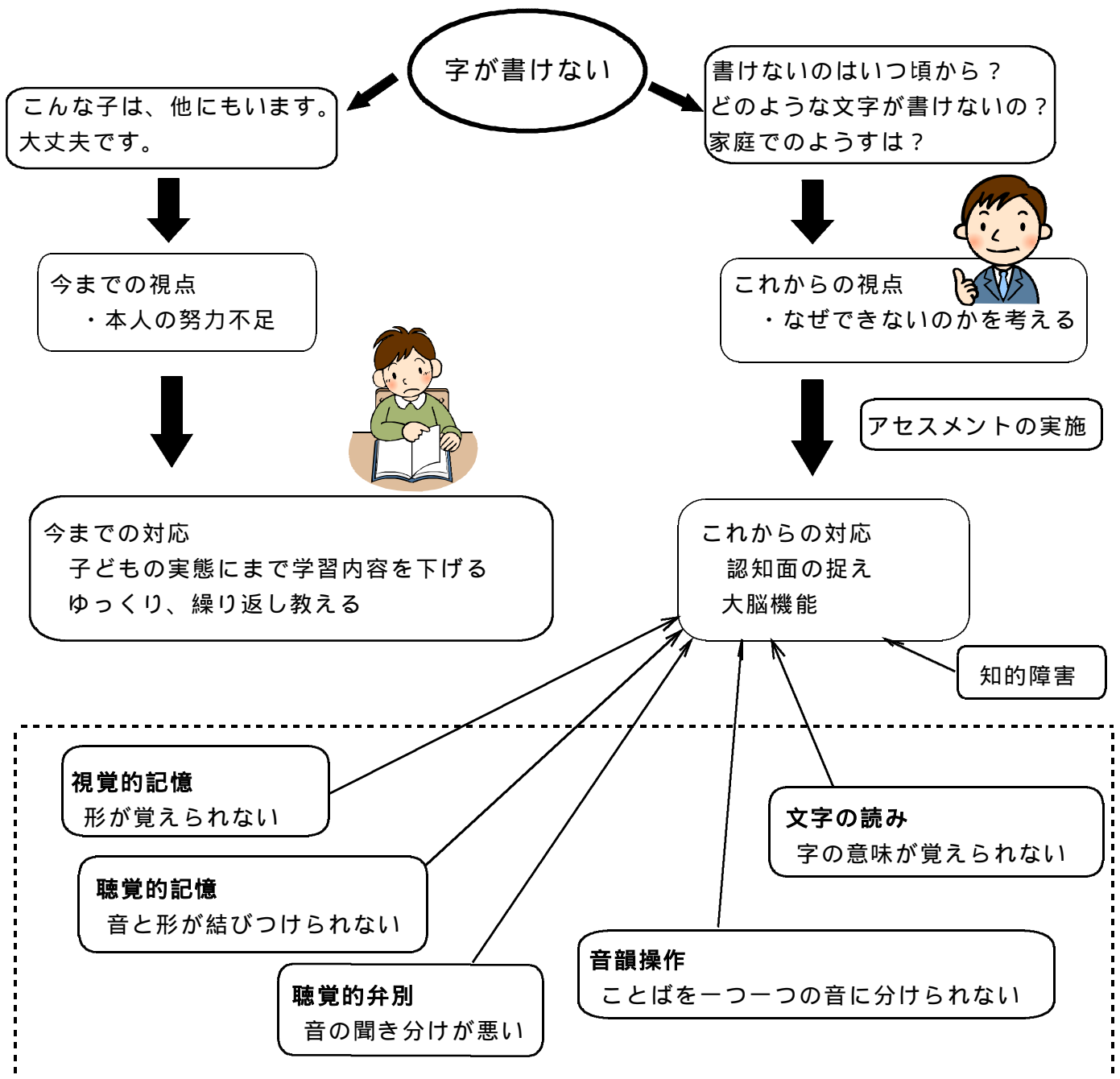
## 1. 作成にあたっての考え方

保護者と課題を共通理解して、指導計画を作成する。

- ・気になるところを整理する。(いつ頃から？ 家庭での様子は？など)

必要な心理検査を実施し、結果を通して子どもを解釈する。

- ・心理検査を実施して、その結果や日頃の生活の様子、学習の様子から課題を明らかにして目標をたてる。
- ・誤りの分析や行動の分析を通して、なぜできないのか。なぜそういう行動をとったのかを考え、支援を明らかにする。



## < 誤りの分析 >

$$\begin{array}{r} \cdot 68 + 36 = 112 \\ \phantom{\cdot 68} + 36 \\ \hline 104 \end{array}$$

算数の計算を横書きでは、間違ってしまうが、筆算では正しく計算できる。

### ( 解釈の一例 )

本児は、左利きで矯正に失敗してしまい左右が混乱している。筆算では、左右がきちんと並ぶので計算ができる。横書きにすると外側の6と6、内側の8と3をたしてしまい計算まちがいをしていると考えられる。このような場合、マーカーで色をつけ左右を分かりやすくしたり、筆算で計算を行う習慣をつけたりすることで分かってくる。学習場面では、算数の本を読むのは左、国語の本を読むのは右、ノートは左など様々である。こういった場面で左右を間違ってしまう場合、まだ左右がよく分かっていないのではないかと考え、指導計画を作成する必要がある。

## < 行動の分析 >

・生活の時間、あさがおの芽がでてきたので「あさがおの観察をしましょう。」と、芽の様子を観察し、絵を描かせる授業があった。「そんなん描けへんわ。」と言って、芽を引き抜いてしまいプランターをベランダから投げ落としてしまった。

### ( 解釈の一例 )

本児の「プランターを投げ落とした」という行動面に目を向けてしまいがちだが、「芽を描くことができない。」という原因を考えていく必要がある。本児は、漢字の「田」を小さい四角が四つあるというような理解をしていた。このような視覚認知では、漢字を書くことに困難を示してしまう。そういった場合、発達性の読み書き障害や書字障害などが考えられ、文字学習だけでなく、絵を描いたりすることも難しいことが予想される。こういった場合、「どういう手順であれば、芽を描くことができるのか。」を丁寧に教えたり、芽の様子をあらかじめ描いたプリントを用意したり、芽の様子を写真などにとったりすることで学習しやすくなると思われる。日頃の学習の様子やアセスメントの結果から一人一人にあった具体的な支援の方法を考えていく必要がある。

# 小・中学校で個別の指導計画を作ろう！！

## 1. 小・中学校での作成

個々の子どものニーズに応じた支援は、複数の教員で考えていくことで実現できます。その際、各学校のコーディネーターの役割は重要で学級担任と協力しながら校内委員会などで個々の子どもに応じた「個別の指導計画」を作成するといった取組が必要となります。

現在、養護学校や障害児学級では、「個別の指導計画」が作成されています。多くの様式は、各教科など（国語、算数など）を縦軸にし、長期目標、短期目標、内容・支援の方法、評価を横軸にしたものが多いようです。

## 2. 作成の流れ

実態を把握する。

- ・ 気になるところや悩んでいることを整理していく。  
実態や気づきを記入する統一した用紙を作成すれば便利。
- ・ 同時に保護者にも用紙に記入をお願いする。  
生育歴等（表1）、生活表（表2,3）、保護者・子どもの願い（表4）等の把握
- ・ 心理検査の結果、分析、判断  
通級指導教室や専門家の意見を参考にする。

目標をたてる。（表5）

- ・ 検査の結果や日常生活、学習の様子などから課題を明らかにして目標をたてる。  
コーディネーター、同学年の先生など複数の教員で検討する。

具体的な支援を考える。（表6）

- ・ 今までの効果的な指導方法も取り入れながら、初期の段階では、良さを生かす方法を中心にした支援の方法を考える。

評価を行い、次の指導につなげる。（表7）

- ・ 学期末には、評価を行い、できるようになったこと、できるようになった具体的な支援等を記入する。また、今後の課題についても次学期の目標として記入する。

表 1

氏 名		性別		年 月 日生	年齢	歳
住 所				自宅電話		
保護者氏名			緊急連絡先			
療育手帳	年 月 日交付		愛護手帳	年 月 日交付		
障害の状況			身体 の 状況			
発作			服薬			
病院名 主治医			薬品名 服薬量			
生育歴			教育 歴			
その他の事項						

表 2

氏名		年齢 歳	記入年月日	年 月 日
1 日 の 生 活 ス ケ ジ ユ ・ ル				
放 課 後 や 休 日 の 過 ご し 方				

表3  
生活地図



記入例

おじいちゃんの家

買い物（ライフ）

学校

西部図書館

プール

- 電車など
- ~~~~~ 自転車
- 自動車
- ===== 徒歩

#### 表 4

保護者のニーズ / 家族の希望リスト (優先順位)

お子さんにできるようになって欲しいと希望することや、減らしたり無くしたりしたいと思っていることとお書き下さい。また、右端の欄には指導を希望する優先順位にしたがって、番号を記入してください。

考えてほしいこと、できるようになってほしいこと、また、困る行動 (減らしたり無くしたりしたいこと) があれば具体的に書きください。	
生活面 (身辺自立・家事・レジャーなど)	
学習面 (学習・仕事・コミュニケーションなど)	
行動面	

表 5

個別の指導計画（中学校の例）

家族のニーズ	
<b>生活面</b> 学校生活を楽しむ。 公共の交通機関を利用できる。	<b>学習面</b> 言葉でのコミュニケーション能力を高める。
<b>行動面</b> 適切なスキップの持ち方を理解する。	<b>子どもの将来像</b> 得意分野を応用し、就労する。

領域・教科	長期目標	短期目標（1学期）	評価	
領域・教科を あわせた 指導	生活面			
	身辺自立	・自分のロッカーの整理をする。	・教科の準備物を一人で用意する。	
	健康保持	・服装の乱れを整える。	・ベルトを正しくつける。	
	家事等	・家庭で決まった仕事を分担する。	・夕食の後食器を片づける。	
行動面	・お金の管理をする。	・一人で買い物をする。		
	移動	・準備物を持ち、移動をする。		・教科の準備物を理解する。
	余暇活動	・指示を理解し、活動を開始する。		・信号に従って通行する。
社会性	・挨拶を交わす。	・視線を合わせて「おはよう」と言う。		
	意思伝達			
生活	・聞く、話す時間を持続させる。 ・友達の呼びかけに答える。	・落ち着いて聞いたり、話したりする。 ・友達と協力して作業をする。		
国語	・ていねいに文字を書く。 ・文章を読み、理解する。	・時間割等生活ノートを記入する。 ・言葉の意味をとらえる。		
数学	・計算の応用をする。 ・お金の計算をする。	・買い物表を作る。 ・計算器で計算する。		
音楽	・全体斉唱をする。	・歌うタイミングを合わせる。 ・歌詞を覚える。		
体育	・体のバランスを整える。	・手足の屈伸をスムーズにする。		
英語	・簡単な会話をする。 ・単語を覚える。	・自分の発音を聞く。 ・あいさつをする。		
美術	・長時間の作業に取り組む。	・タイマーなどで集中時間の設定を自分でする。		
技術・家庭	・ていねいに作業する。	・じっくり取り組む態度を養う。		

80%以上は      60%以上は      59%以下

表7

## さん年間指導計画（一学期）

授業名・一学期のねらい	一学期の指導内容	評価・二学期の課題